



こすもスマイル



発行／小林市立病院
地域医療連携室

26号

平成29年7月7日発行

～病院長のあいさつ～



平素より当院の病院運営に対する皆様方のご理解とご協力には感謝しております。

ご存知のように当院では2017年5月から産婦人科外来が再開され、宮崎大学病院より産婦人科医師の派遣をいただき、妊婦健診がはじまりました。また、6月からは婦人科疾患に対する外来診療も開始されました。宮崎大学産婦人科学教室、医師会および行政のご尽力には感謝いたします。近隣の方々が遠方の産婦人科医療機関へ通院しなければならないという負担の軽減にお役に立てればと考えております。

当院では7月から地域包括ケア病棟を開設いたします。2016年8月から10床の地域包括ケア病床で運用を開始し、このたび病棟開設に至りました。地域包括ケアの整備の一環として、急性期病棟を堅持し在宅医療へのスムーズな移行のためのいわゆる回復期機能拡充を目的とした病棟運用を目指していきます。

また、近年問題視されている過剰な医療資源の投入など医療の質が問われていることに対しては、DPC導入を予定し、急性期疾患を中心にクリニカルパスの積極的なバリエーション修正をおこない医療現場に反映することで、医療の質の向上と、医療資源の有効な利用に努めてまいります。

急性期医療を維持し的確な医療の提供、回復期医療である地域包括ケアの整備、実践のためには、医師を含めた医療従事者のスタッフ不足など問題はありますが、現場での医療レベルの向上に努力し、周囲の医療機関、介護施設から信頼を得ることで密接な連携を深め、当医療圏における地域医療の中心的医療機関のひとつとして機能できるように努力する所存ですので、今後ともご協力およびご指導をよろしくお願い申し上げます。

小林市立病院 病院長 徳田 浩喜

理 念

「安心、安全で信頼される病院を目指します」

【基本方針】

- ◎ 西諸の中核病院として、地域の医療機関と連携し、高度な医療を提供します
- ◎ 職員一丸となって、迅速な対応とチーム医療で、安全な医療を提供します
- ◎ 誠実かつ真摯(しんし)な姿勢で日々研鑽(けんさん)に努め、信頼される質の高い医療を提供します
- ◎ 自治体病院として、平等で心が通い合い、安心できる快適な療養環境を提供します
- ◎ 患者様と家族の満足を追求し、プライバシーの保護をはじめ患者様の権利を尊重します



看護部紹介

今回は

4 階 病 棟

です。



当院の回復期リハビリテーション病棟には、一般病棟で急性期の治療を終えた患者さん方が入棟されてきます。大腿頸部骨折術後や脊椎圧迫骨折・肺炎などの治療後の患者さんです。入院が長期になったり痛みがあると動きが鈍くなり、食欲が落ちたり筋力が上がらなったりします。そんな患者さんに、退院先に応じた行動が取得できるように私たちは関わっています。

当病棟は平成 25 年 6 月に開設し、今年で 5 年目を迎えました。今年 3 月までに 506 名の患者さんが自宅・施設・病院へと退院されています。平成 28 年度をみると、退院された 138 名のうち 95.7%は 65 歳以上の高齢者で、その 2～3 割の方々に食事の偏りがあることに気づきました。

そこで入棟したら食事を摂る姿勢の評価を先ず行っています。しっかりとした姿勢でバランスの良い食事が摂れば、栄養状態は安定しリハビリの効果も現れ、筋力が戻ってくるからです。背中が曲がりや傾いた姿勢では食事摂取量は増えず、温かい食事であっても美味しく食べることはできません。食べる姿勢や飲み込む動作を理学療法士・作業療法士・言語聴覚士に相談したり、食材の固さや形態を管理栄養士に相談したりして、少しでも食事量が進むように働きかけています。夕食前には唾液が出やすいように、食材を噛む動作に自然に入るように口腔体操を行っています。また“楽しく食べる”ことを目標に、デイラウンジで顔を見合わせての食事もさせていただいています。

“生活をする”にはこの他にも、からだを清潔に保つ・着替えをする・便座に座る・排泄時には衣服の上げ下ろしをする・立ち上がる・脚を上げて歩く・・・などの基本的な動作の習得が必要です。患者さん一人ひとりが自分でできるよう支援しています。

以上のような日々のケアに加え、患者さん本人やご家族に退院後の生活の希望を面談で伺っています。一人暮らしや高齢者世帯であったり身内の方が遠方であったりと、皆さんいろんな事情を抱えて生活しておられます。寂しい思い・不安な思いを多く耳にします。看護師やメディカルソーシャルワーカーはその思いに耳を傾けながら、退院された後の生活をイメージして対応させていただいています。

国は「住み慣れた地域でいきいきと元気に、安心して暮らしていけるよう、医療・介護・福祉・住まい・介護予防など多方面から高齢者やその家族を支えて行きましょう」と言っています。私たちの住むこの西諸も例外ではありません。高齢化率 35.0%と、住民 3 人で高齢者 1 人を支えています。病気になった時・誰かの手を借りる時期になったときのことを、元気なうちに、自分で物事を判断できるうちに形にしておくことが必要かと思われれます。

今後も私たちは回復期リハビリテーション病棟の特殊性を活かしながら、患者さんが住み慣れた家で・慣れ親しんだ施設で生活できるよう支援していきたくと思っています。

4 階西病棟師長 竹内 かおり

コメディカル紹介

今回は

臨床工学室

です。



当院に臨床工学室が開設されて10年目になります。私が入職した当初は、各種の血液浄化療法と高気圧酸素療法、ME機器の保守・管理を主業務にしておりましたが、最近では、非侵襲的人工呼吸療法や、内視鏡下での低侵襲外科手術等に多く携わる傾向にあります。

また、地域医療支援病院の職員として、臨床実習の受け入れや教育機関への出張講義等の業務も年々多くなっています。

また、毎月第4火曜日は、当院の2階会議室で医工学連携勉強会を開催し、西諸地区の臨床工学技士と臨床業務と医療機器に関する情報交換を行っており、参加人数も20名を超え、技士ネットワーク構築に多忙な毎日を送っています。



当院は、医療機器の保有台数は差ほど多くありませんが、そのかわり、レンタル機器や代替え機器等の不慣れ機械の種類が多くなり、現場スタッフが取扱に苦労しないように、繰り返し操作教育を行い、また自作の簡易取り扱い説明書等を作成するなどして、全スタッフが安心して使用できるように努力しております。

今日では、超高齢化社会を目前に切れ目のない医療が求められ、在宅医療へのシフト化が注目されております。中でも、在宅と自宅を結ぶ遠隔医療に期待が寄せられ、我々の新たな業務目標として技術の取得に努めているところです。今後益々、医療現場において機器は必須となり、病院から在宅までの幅広い場所で活用されると言われます。

しかし、医療機器は適切に使わなければ、十分な能力を発揮されず、保守を怠れば事故を引き起こしかねません。今後も患者さんに医療機器が適切に使用されるように援助していきたいと思います。当院来院の際または、医療機器に関するお問い合わせなど、遠慮なくご質問ください。



小林市立病院 MEセンター 0984-23-8237 (直通)

臨床工学室 村田 惇一

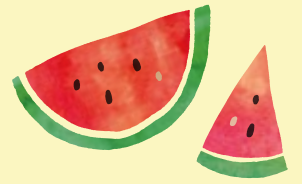
西諸地区内視鏡技術検討会

平成29年5月18日（木）に「第1回 西諸地区内視鏡技術検討会」を当院2階大会議室にて開催しました。

今回は、横山病院 内視鏡科長 渡部 博一 先生を講師にお招きし、『大腸内視鏡における用手圧迫のポイントとコツ～検査時間短縮の取り組み～』についてご講演いただきました。

当院だけではなく、西諸管内の医療従事者を含む総勢80名の方にご参加いただき、大変充実した会になりました。ありがとうございました。

今後も随時開催を検討してまいりますので、その際は多数のご参加お待ちしております。



今回のお花

小林華道連盟より
毎週すばらしいお花をいただいております。



症例検討会

平成29年4月24日（月）に「第25回症例検討会」を当院2階大会議室にて開催しました。
今回は、院内職員の発表のみでしたが、大勢の方々にもお越し頂き、大変充実した会となりました。
ありがとうございました。



第25回症例検討会

日時：平成29年4月24日（月）18時30分～ 参加人数 90名

座長：小林市立病院 泌尿器科医長 森 勝久

ADLが低下した高齢者の在宅復帰への支援
～多職種との連携・統一した援助を行って～

小林市立病院 5階病棟

○池ノ上 真由美



虫垂炎の術前検査で発見されたサラセミアの
1 症例

小林市立病院 臨床検査室

○神谷 英輝



下肢（踵部）難治性潰瘍に対する治療

小林市立病院 整形外科

○増田 裕介



開腹歴のないイレウスの2 症例

小林市立病院 消化器外科・腫瘍外科

○泊 賢一朗



当院の内視鏡下胃瘻造設術（PEG）の現況

小林市立病院 消化器外科・腫瘍外科

○島名 昭彦



今月の献立

行事食

精進料理

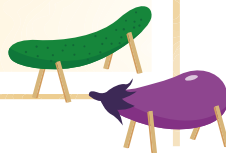
7・8月

- ☆炊き込みご飯
- ☆煮物
- ☆天ぷら（てんぷゆ）
- ☆そうめん汁
- ☆フルーツ（ぶどう）



精進料理とは・・・

魚や肉を一切使わずに、調理された食事のことです。この料理の基本は、食材の味を生かすための調味料の使用を抑え、食材を余すことなく使い切る事で無駄を出さないことにあります。



精進料理を調理する時の心構え

- ①喜心（きしん） →人の為に、喜びの心を持つ
- ②老心（ろうしん） →細やかな心配りをする
- ③大心（たいしん） →冷静にバランスを考える



連絡先

小林市立病院 地域医療連携室

TEL 0984-23-8225（直通）

FAX 0984-23-8226

Mail k_hosp4@city.kobayashi.lg.jp



編集後記

梅雨宣言後、好天が続いて空梅雨かなと思っていたら、豪雨と竜巻注意報！紫陽花も、しっとりとした雨がほしいだろうなあと眺めています。湿っぽい部屋を、除湿器でカラッと除湿できるように、気持ちも除湿器をかけてカラッとさわやかに元気にいきたいと思って、曇り空を見上げています。雨も天からの贈り物。感謝できる程度の降りでお願ひしたいですね。

退院調整看護師 岩田 マリ子